

第5学年 国語科学習指導案

平成29年5月31日(水) 5校時

5年1組 男子9名 女子11名 計20名

授業者 葛西 祐介

- 1 **単元名** 『ザ・ジャッジ 賛成?反対?～討論会をしよう～』
教材名 「立場を決めて討論をしよう」(東京書籍6年)

2 単元の目標

- 論題に対する自分の立場を明確に主張しながら討論をすることに関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。(関心・意欲・態度)
- 立場を明確にして、理由や具体例を添えて意見を述べることができる。(A 話す・聞くこと ア)
- 互いの主張やその理由を明確にして、考えの違いを尊重しながら討論をすることができる。(A 話す・聞くこと オ)
- 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心を持つことができる。(言 イ(カ))

3 単元について

(1) 単元観

①本単元で取り上げる主な指導事項

本単元は、小学校学習指導要領国語の第5学年及び第6学年「A 話す・聞くこと」の指導事項「ア 考えたことを伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係付けること。」と「オ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。」を取り上げて指導する。

②付けたい力へ向けての言語活動とその特徴

本単元では、「A 話す・聞くこと」の言語活動例「イ 調べたことやまとめたことについて、討論などをする言語活動」を具体化した『ザ・ジャッジ 賛成?反対?～討論会をしよう～』という言語活動を位置付ける。

ここで取り上げる『ザ・ジャッジ 賛成?反対?～討論会をしよう～』は、論題についての考えをまとめ、二つの立場に分かれて討論するというものである。討論を深まりのあるものにするためには、ただ理由をあげればよいのではなく、説得力のある理由をあげることが求められる。説得力のある理由とは、多くの人がうなづく具体的な例や理由に関係する数値や資料、納得できる新しい見方や考え方などがある。討論に至る準備段階では、事実と意見を区別し、説得力のある理由を収集・選別したり、相手の主張の理由や相手からの質問を想定したりする時間を十分設けて、討論に必要な力を付けさせたい。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けては、子どもたちの学ぶ意欲が高まるよう、子どもたちに身近な話題の論題を設定する。そうすることで、児童が興味・関心を持って、本や文章を調べたり、インタビューやアンケートを行ったりするなどして、自分なりに幅広く考え、資料を用意するようになる。また、討論では、異なった角度からの意見が出たり、新たな提案が行われたりすることが予想される。そのため、準備した資料などを基づいて明確に対応することができるよう「主張カード」や「予想カード」を話し合わせながら準備させる。そのような話し合いの中で、調べたことやまとめたことをについて、討論をする力を育てていきたい。

(2) 児童観

児童は、4年生11月『クラスで話し合おう』の単元で、自分の役割を考えて、よりよい話し合いをする学習を行っている。その際、一人一人が目的を意識して計画的に話し合う力をも身につけた。また、5年生5月『意見と理由を聞き取ろう』では、意見と理由を聞き取り、共通点を見つけて整理する練習を行っている。その中で、ほとんどの児童は、意見と理由を両方に着目して聞き取ることはできたが、共通点を見つけて整理することには弱さが見られた。また、今回取り組むような討論のような形式の話し合いをするのは初めてである。

昨年度の県版学力テストでは、正答率63.7%という結果で、高知県平均との差は+1.5%である。しかし、「A話す・聞くこと」の2問の正答率は61%で、期待正答率70%に対して-9%となっている。また、問題の内容でみると「A話す・聞くこと」の領域「質問の内容として、ふさわしいものをえらぶ」では、正答率46.3%となっており、期待正答率70%に対して-23.7%となっている。このことから、話の中心に気をつけて聞き、質問したり感想を述べたりすることに弱さがみられる。そのため、学級会などの話し合い活動では、論題に対して、質問したり感想を述べたりすることを意識して取り組んできている。

(3) 指導観

第一次では、児童が興味を持って課題へ取り組めるように、討論の進め方や役割分担について司会・賛成・反対・審判を4名の教師が役割演技をして、イメージをつかませる。その上、児童の興味・関心に応じた身近な論題例（明確に2つの立場に分かれて議論できるもの、十分に共通認識がえられるものである例）をいくつか提示し、児童の興味がある論題を選ばせる。そして、討論の進め方や役割分担（司会・審判・賛成・反対）などを理解させ、単元の学習課題を確かめさせる。

第二次では、まず、論題に対する自分の立場、賛成か反対を決めて、その理由をメモに書き出し、教科書の西村さんの意見文を参考にして、論題に対する自分の立場を主張する意見文を書く。次に、論題に対して賛成・反対のグループに分かれて、討論の準備していく。その際は、まず、説得力のある理由を考えてグループの主張を3つに整理する。次に、相手の立場からの質問を予想して、どのように答えると理由を守ることができるかを話し合い、「主張メモ」に整理させる。最後に、相手グループの立場の理由を予想して、それに対する質問を「予想カード」に整理できるよう話し合わせる。その際、相手の理由に対する質問が思い浮かばないグループには、自分の理由と相対するものを組にして分類させ、質問の手がかりとさせる。それでも思い浮かばない場合は、主張メモを交換させ、それに対する質問を考えさせる。「主張メモ」や「予想カード」を作り上げる中で、説得力のある理由・質問とするための話し合いを十分にさせた上、次時の討論へとつなげていきたい。

第三次では、論題に対するグループの立場の主張とその理由を明確にしながらか討論をする。その際、司会はスムーズに進行できるように、論題を空欄にした司会者の台本を用意する。また、区切りごとの時間配分も書いておき、進行表とかねておく。審判は、多くの人がうなずく具体的な例があるか、理由に関係する数値や資料があるか、納得できる新しい見方や考え方があるか、などの観点にあたる発言内容を評価するように指導する。このような活動をする中で、立場と理由を明確にして、考えの違いを尊重しながら討論する力、理由や具体例などを添えて意見を述べる力をつけていきたい。

4. 単元構想図

つきたい力に向けた言語活動

互いの主張とその理由を明確にしなが、計画的に討論する。

児童の実態

- 興味・関心を持って学習を進めることはできるが、計画的に話し合うことには弱さがみられる。
- 論題に対して自分の立場を決めることはできるが、わかりやすく発表をすることのできる児童が少ない。

単元の評価規準

《国語への関心・意欲・態度》

- ①論題に対する自分の立場を明確に主張しながら討論することに関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。

【関心・意欲・態度】

《話す・聞く能力》

- ①立場を明確にして、理由や具体例を添えて意見を述べている。

【A(1)ア】

- ②互いの主張やその理由を明確にして、考えの違いを尊重しながら討論をしている。 【A(1)オ】

《言語についての知識・理解・技能》

- ①語感、言葉の使い方に対する感覚等について関心を持っている。

【言イ(カ)】

本単元で児童につきたい力

- ◎互いの主張やその理由を明確にして、考えの違いを尊重しながら討論する力 【A(1)オ】
- 立場を明確にして、理由や具体例を添えて意見を述べる力 【A(1)ア】

第一次
1 (導入)

第二次
3 (展開)

第三次
3 (活用)

学習の流れと評価計画(全7時間)

主体的な学び

- 学習の見通しを立てる。 1【関①】

・論題に対する立場とその理由を、互いに明確に主張しながら計画的に討論をするという学習課題を確かめる。

対話的な学び

深い学び

- 論題を選び自分の立場を決めて意見文を書く。 1

・論題に対する自分の立場を決め、その理由の構成メモを書き、論題に対する自分の立場を主張する意見文を書く。 【書①】

- グループに分かれ、討論の準備をする。 2

・グループの主張をまとめ、「主張メモ」に書いて、相手からの質問を予想し、話し合う。 【話聞①】

本時

・「予想カード」を書いて、相手の立場の理由を予想し、話し合う。 【話聞①】

並行読書
(なし)

対話的な学び

深い学び

- 立場と理由を明確にしなが、討論をする。 2

・どう質問したり答えたりしたら、もっと相手を納得させることができたか考え、発表する。 【話聞①】

- 単元の学習をふり返る。 1

・互いの主張と理由を明確にしなが、計画的に討論することができたかどうか振り返る。 【話聞①】【関①】

5. 評価規準 論題例：夏休みの宿題の内容は、自分で決めるべきである。

B 概ね満足できる状況

- ◆相手の主張を考え、それに対するの質問を話し合っている。

賛成グループの場合

【相手の主張】自分で決めると内容が少なくなる。

【質問】夏休みの宿題を先生が決めたとしても、少なかったらどうしますか。

A 十分満足できる状況

- ◆相手の主張を考え、それに対するの質問の中にある問題点について考えながら話し合っている。

賛成グループの場合

【相手の主張】自分で決めると内容が少なくなる。

【質問】自分で決めたとしても、自分に何が足りないか考えて決めるので少なくならないのではないか。

6. 本時における研究テーマとのかかわり（身につけさせたい資質・能力）

相手の立場に立って理由を予想し、それに対する質問を話し合う力

主体的な学びにつながる「めあて」と「振り返り」の関連

・説得力のある理由や質問にするためにどれが相応しいかを話し合っ作り上げていく中で、討論の準備で必要なことを気づかせ、1時間の学びを自覚させるようにする。

深い学びへ向かうための発問・指示の工夫

- ・**発**「では、今からグループで、相手のグループに「あっそうか!」と気づいてもらうための質問を話し合しましょう。」
- ・**指**「どんな質問にすると、相手グループが「あっそうか」と気づく質問にすることができたかを書きましょう。また、友だちと話し合う中で気づいたこと、書きましょう。」

軸となる言語活動

○相手の立場に立って理由を予想し それに対する質問を話し合う。

思考・判断

・相手の立場に立って理由を予想し、それに対する質問を考える。

表現

・グループでの活動を通して、「予想カード」に整理する。(予想カード)

対話的な学びを実現するための工夫や手立て

・予習をもとに、討論の理由や質問などが、説得力あるものにするためには、どれが相応しいかを話し合いながら明確にさせていく。

・相手の主張やそれに対するの質問をグループで話し合いながら、明確にさせていく。

7. 本時の学習（4／8）

第二次 3時間目

(1) 身につけさせたい資質・能力 相手の立場に立って理由を予想し、それに対する質問を話し合うことができる。

(2) 展開

	主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点 (○) 支援 (※) 評価 (☆)、主な指示 ^指 、主な発問 ^発
見 通 す	1. 単元のゴールと討論をするためにまだ準備できていないところを確認する。 2. 本時の学習のめあてをつかむ。 めあて	○学習の流れを確認し、ゴールと討論をするためにまだ準備できていないところを確認させる
思 考 し 深 め る	3. 「予想カード」を作る手順を確認する。【全体】 4. 同じ立場のグループで相手の主張を予想し、「予想カード」を話し合う。 ①相手の主張を予想する。【個人】 ②その主張に対する質問を考える。【個人】 ③どの質問が「あっそうか」となるか話し合う。【グループ】 ・あっそうか、この質問いいね。 ・この質問は、わかりにくいなあ。 5. 討論の演習をする。	○教科書をもとに、「予想カード」を作る手順を確認させる。 ○まず、個人で相手の主張をなるべく多く予想カードに書かせる。 ○次に、予想カードを交換し、個人でその主張に対する複数の質問を考え、なるべく多くふせんにかかせる。 ^発 「では、今からグループで、相手のグループに「あっそうか！」と気づいてもらうための質問を話し合いましょう。」 ☆相手の立場に立って理由を予想し、それに対する質問を話し合っている。 【話す聞く①】 （発言・予想カード） ※相手の主張に対する質問が思い浮かばない場合には、自分たちの主張と相対するものを組にして分類させ、質問の手がかりにさせる。 ○早く終わったグループには、教科書をもとに実際に演習させる。
ま と め ・ 振 り 返 る	7. 今日のふり返りを書く。 学びをふり返り、発表する。 家庭学習 討論がすぐにできるように、「主張カード」や「予想カード」を用いて、討論で話す練習をしてくる。	^発 「どんな質問にすると、相手グループが「あっそうか」と気づく質問にすることができたかを書きましょう。また、友だちと話し合う中で気づいたこと、書きましょう。」

